



2023年5月8日

各位

会社名:フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
(コード:8462 東証スタンダード市場)
代表者名:代表取締役 金 武 偉
問合せ先:財務経理部長 西田 賢一郎
(TEL:075-257-2511)

株主提案に対する当社取締役会意見に関するお知らせ

当社は、当社株主様より、2023年6月13日開催予定の第25回定時株主総会（以下、「本総会」）における議題について4月4日付け株主提案（以下、別途受領した4月11日付け「議題及び議案の変更」と題する書面と併せて、「本株主提案」）を受領しておりますが、本日開催の取締役会において、本株主提案に対して反対することを決議いたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

1. 本株主提案の内容

取締役（監査等委員である取締役を除く。）7名選任の件

なお、本株主提案の内容は、2023年4月12日に当社が開示しております「株主提案書（議題及び議案の変更）」に関する書面受領のお知らせのとおりです。

2. 本株主提案に対する当社取締役会の意見

① 当社取締役会の意見

取締役会としては、本株主提案に反対いたします。

② 当社取締役会による提案株主に対しての書面質疑の結果

2023年4月24日付け「株主提案に関する取締役会意見表明の予定に関するお知らせ」にあるとおり、当社取締役会は、提案株主に対し、4月下旬から5月上旬にかけて書面による質疑をおこないました。本総会予定日が差し迫る中、必要最低限の質問をおこない、その中でも特に、提案株主が対案として掲げる事業戦略の特徴につき、理解することに努めました。

具体的には、当社は、イ) 現経営陣がファンド業務の拡大と企業買収を掲げるのに対し、本株主提案も「CVCファンドの強化」と「地域企業への自己投資(M&A)」を提唱していることから、それらの一番大きな違いについて、ロ) 提案株主が、当社による自己投資についてはファンドビジネスとの利益相反性を批判しておきながら、本株主提案が掲げる自己投資には同じ課題が生じないと考えている真意について、それぞれ質問をおこないました。

結果、当社が本年5月1日付けで提案株主より受領した回答によれば、1) 前者に関しては、当社取締役会の経営方針は「実現可能性」が乏しい点が一番大きな違いであり、2) 後



者に関しては、提案株主は、当社が自己投資することを否定しているのではなく、当社による、自己投資に関する「情報発信」がファンド出資者をないがしろにしているか危惧しているに過ぎない、とのことです（5月8日付けで当社ホームページに掲載した「5月1日付け提案株主による回答全文」ご参照）。

③ 本株主提案に反対する理由

ア. 対案なき批判に終始する本株主提案では、企業価値向上及び株価上昇は期待できないこと

当社は、上場会社として、企業価値向上及び株価上昇に資するか否かを経営判断の基準としており、株主総会で諮る議案の判断においても、同様に、企業価値向上及び株価上昇を見込めなければならないと考えております。

しかし、本株主提案は、当社の経営に関する新ビジョンや代替政策の提案ではなく、当社による適時開示の内容又は当社取締役会による提案株主への回答を恣意的に部分引用した上での第三者的な批判に終始しております。

提案株主は、当社の掲げる経営戦略を「極端」や「会社組織としての実行力を無視」、そして「実現可能性が乏しい」などと結論めいた批判を繰り返しつつ、新経営陣としての戦略は「重要ステークホルダーの皆様と協議」のう え立案するとしています。具体的な対案の提示がない以上、本株主提案が可決したとしても、当社の企業価値向上及び株価向上の展望が描けません。

これに対して、当社取締役会は、2022年9月12日付けで当社が公表した「新・中期ビジョンと成長戦略」（以下、「新中期戦略」）で開示したとおり、ファンド業務の拡大とサーキュラーエコノミー（循環経済）領域に重点を置く永久保有型企業買収（以下、「永久投資」）の実行を両軸とした具体的な経営ビジョンを提唱しております。

また、本日付け「単独株式移転による持株会社設立に関するお知らせ」にて開示しましたとおり、当社は、売上30億円規模で黒字の某再生資源・エネルギー開発企業の買収につき、2022年11月から投資検討に着手し、本株主提案の前には、本日（5月8日）の最終合意及び公表に向けて最終段階にあるなど、新中期戦略を現に実行できる体制にあります。

さらに、当社は、新中期戦略において「ファンド運營業務」及び「永久投資」を両輪として様々な相乗効果を発揮することを標ぼうする旨を開示しており、投資政策については情報発信において、ファンド出資者をないがしろにするものでないことは明らかです。

イ. 提案株主様は、当社の経営に関する理念と政策の一貫性に欠けること



提案株主代表の澤田大輔様は、過去1年半という短期間のあいだに、松本直人前社長に対する支持と反対、そして金武偉体制に対する支持と反対の方針を複数回往復されています。具体的には、昨年4月15日には、当時個人株主であった金武偉による株主提案に反対し、松本直人前社長による前経営陣を支持する旨のプレスリリースを出されました。その後、前経営陣に対する支持を取り下げ、金武偉の株主提案を支持くださったものの、今はこうして金武偉に事実上の退陣要求をされています。

なお、こうした過去の経緯については、公然の事実の記載のみにとどめておりますが、株主の皆様による本株主提案に関する判断のため必要と認められるときは、より詳細な経緯を客観的証拠と併せて公表することを検討してまいります。

当社は、上場を目指す起業家も支援するベンチャーキャピタルとして、株主様による正当な株主権行使を歓迎します。しかしながら、当社の経営に関して二転三転され、ここまで極端に立場変更を繰り返されてきた提案株主による取締役選任は、当社取締役同士の信頼を損ない、社員の動揺すら招きかねず、当社の経営政策実行の集中力とスピードを奪い取るものと言わざるを得ません。

これに対して、現経営陣は、経営理念と政策方針につき常に一貫しております。昨年4月の株主提案から更に一年遡る2021年4月から、金武偉は、前経営陣に対し、①ファンドによる投資領域を事業再生から上場株式に至るまで拡大すること、②当社の現金資産を有効活用すること、を書面にて提案しております。その内容は、金武偉による昨年の株主提案及び就任後の当社の新中期戦略と完全に整合しております。

いまのFVCは、謙虚であるべきです。つい4期前まで赤字決算を繰り返し、売上高がわずかに5億円台でありながら30余名の社員の生活を預かる当社は、競合他社が二年かけてやる仕事を、全社を挙げて一年や半年でこなすべき身分にあります。そうした実効性とスピード感ある経営政策の実行を可能にする取締役同士の結束の礎（いしずえ）は、経営理念や政策方針の一貫性にほかなりません。

3. 今後の対応

当社取締役会は、株主総会で全株主による信を問いつつ、引き続き金武偉を中心とする体制で経営改革を断行し、ファンド業務の拡大と永久投資を実行してまいります。

本株主提案において提案株主が行っている主張に対する、当社取締役会による個別の反論は、**本日（5月8日）付けで当社がホームページに掲載した「株主提案の各主張への反論」**をご参照下さい。



提案株主におかれては、本書の反対意見に対し、反論や主張があるものと推察します。同時に、当社取締役会としても、企業価値向上・株価向上実現に向けた経営ビジョンと戦略を直接自らの口で説明できることは、経営権取得を目指す人物の最低条件であると考えており、株主の皆様全体にこれが明らかにされるべきと考えております。

つきましては、本日、当社代表取締役 金武偉より、提案株主代表 澤田大輔氏に対し、ライブ中継型 YouTube 討論会を申し入れました。日時・場所・回数はすべて澤田氏の指定によるものとします。澤田氏の応諾によりこの討論会が実現した場合、その録画は一切編集することなく、速やかに当社ホームページに掲載いたします。

以上